人間の影響で絶滅が早くなる

河川改修で絶滅するアオハダトンボ

アオハダトンボは 2012 年に絶滅の危惧があるとして第四次レッドリストの準絶滅危惧種に新規掲載されたトンボである。

伊豆市においても複数個所で生息が確認されたことがある。コロニーを作り遠くまで飛翔することがないとされるトンボで、コロニー単位で消滅するのである。

ところで、伊豆半島の首根っこにあるダルマヤマ麓の大沢字小日向に端を発して流れる全長6．2kmの山田川は熊坂を過ぎて伊豆市と伊豆の国市の境を分ける川となる。ここが 2013 年 3 月までアオハダトンボの隠れた生息地であったのをごぞんじだろうか？

絶滅危惧種のアオハダトンボの♂

アオハダトンボは葦などが生い茂っている場所の草につかまって生息するが、山田川の下流にも葦が密生している。山田川では葦が標高差200mを一気に流れる豪雨の干渉ともなって、ヤゴが他の水生生物とともに流されないで豊かな生態系になっているのであろう。

2013 年 6 月に、熊坂にある小学校の依頼で「狩野川の生物と水質について」という野外実習を行った。葦の根元にしがみついて産卵をするアオハダトンボや水生昆虫（カゲロウ、トビケラ）、カワニナ、小魚等生態系の観察ができ実習の成果を得たものと考えている。

♀の産卵を見守るアオハダトンボの♂

今年もアオハダトンボの観察ができると思い、意気揚々と本日（2014．5．29）カメラ片手に出かけたしだいである。

現場について我が目を疑った。川底がきれいに改修され、大きな石も見当たらず、河川両側の堤防の間を水がさらさらと流れているのだ。

戸惑った。ヤゴの住む場所がない！ゲンジボタルがサナギになる場所が無い！
案の定アオハダトンボの姿はかけらともしなかった。たぶん 6 月になってもホタルは飛ばないだろうとも思った。

近くで農作業をしている人に声を掛けてみた。「この川は改修をしたのですか」。「うん。やったよ。今年の 3 月だったか 4 月だったかブルで押した」
「この川には貴重なトンボがいたんですけどね～」「うん、流れてその辺にいるだろう」と無頓着。

左の写真は 2013 年 6 月。
この場所の上流と下流には1mほどに育った葦が群生しておりこの小さなスペースがアオハダトンボの繁殖の場所であった。
この場所で野外実習を行った。

左の写真は 2014 年 5 月。
トンボのヤゴがすめる草の根がなくなっている。
5 月にはゲンジボタルが土に上がってサナギとなるが、サナギになる場所が無いのでここでの世代交代は不可能となった。
葦の群落がなくなり、全長6．2km、高低差200mをボブスレーのように流れる濁流に対しての緩衝効果もなくなった。

地図上からみると境界は川の中央になっている。今回の工事を誰が判断して誰が行ったのかは知らないが、環境を変えてしまう力を持つ人間は自然に対してもっと繊細な気持ちで取り組む必要があろう。